

# 東風見聞録

平成23年1月発行 通巻40号

イーストウインド・プロダクション 田中正人・竹内靖恵

群馬県利根郡みなかみ町鹿野沢637-M302

電話・FAX 0278-72-9292

## パタゴニアエクスペディションレース 出発間近！

### 続 チームイーストウインド パタゴニアエクスペディションレースに再び挑戦！！

いよいよパタゴニアに向けて出発する日が今月末となりました。11月中旬にレース出場の話が出てから2ヶ月間。時間もないうち、チームはハードトレーニング、自身の身体の調整、主催者への提出物、現地滞在手配、資金集め、マスコミ対応、そして装備の準備も大詰めとなりました。

今回のチームイーストウインドは、田中正人を主将とし、田中陽希、倉田文裕、和木香織利と20代の若い世代にアドベンチャーレースの真意を伝える事を役目としながら、この大きな舞台に挑戦します。

【大会名称】 Patagonia Expedition Race

【大会公式サイト】 <http://www.patagonianexpeditionrace.com>

【開催期間】 2011年2月5日～2月19日(レース期間は2月9日～16日)

【実施主体】 Nómadas Outdoor Services

【総距離】 未発表(レース前々日に発表)

【レース種目】 マウンテンバイク、トレッキング、シーカヤック  
ロープアクティビティ(全種目ナビゲーションで進む)

【参加チーム】 15チーム

【備考】 世界で最も冒険要素を含んだアドベンチャーレース



今回長距離と予想されるシーカヤックをメインにチームトレーニングを行っています。特に長時間の漕ぎとセルフレスキューの練習に時間を費やしています。

海外の大型レースの多くは、主催者に技術証明書を提出することが義務となっているため、少なくとも要求されるレベルの危機管理技術やスキルを身につけておかなければいけません。今回はレース出場が決まってから出発までに時間がないうち、トレーニングを終えてからチームミーティングを夜明けまでかかって行っていますが、それでも時間が足りないくらいです。

チームイーストウインド独特の策の中には、長時間のパドリングでトイレに行けないため、大人用のオムツを履いてカヤックに乗り込む事も検討しています。

### チームイーストウインドへのご支援のお願い

チームイーストウインドを応援して下さる方から「応援したいけど、どこにどうやったらいいのかわからない」と言うお声をたくさん頂いております。心より感謝申し上げます。

レースは参加費や渡航費だけではなく、大自然の中で生命を支える高性能ギア、食料一式、そして何より飛行機に乗る際の荷物の超過料金など、多額の準備金が必要なため、まだ不十分な状況です。

アジアを代表してこの大会に挑むチームイーストウインドへのご支援をどうぞお願い申し上げます。

【イーストウインドへのご支援金 振込先】

新生銀行 本店 400 (普)0439941 タナカマサト



## ～ 応援してくださる皆様へ ～ チームイーストウインド メンバーより

田中正人です。いよいよ出発が目前となりました。出発準備で忙しい日々を過ごしていますが、メンバー全員とてもやる気に満ち溢れています。パタゴニアエクスペディションレースはかつてないほど冒険的で、想像を超える困難が待ち構えているでしょう。前回それで苦勞をしましたが、今回はその経験を活かし、更なる積極的なレース展開を目指します。ここに来て多くの皆様の応援を頂き、感謝に堪えません。皆様のご期待に応えられるよう、精一杯がんばります。



倉田文裕です。レースのスタートが間近に迫り、日に日に緊張感が高まってきました。今年は昨年以上の結果が絶対なので昨年以上のプレッシャーがありますが、多くの皆様のご支援がそれ以上の大きな力を我々に与えて下さっております。皆様のご支援に全力で応える為にも必ず目標の5位以内でゴールして日本に帰ってきたいと思っております。良い報告が出来るように頑張ります。行ってきます！

田中陽希です。レース出発が目前となり、いよいよという気持ちになってきました。1ヵ月後にはどんな結果になっているか今から楽しみです。前回に引き続き多くの方々からの支援を頂き、結果を残さなくてはいけないというプレッシャーとともに、私たちのチームは愛されていると強く感じています。地球の裏側パタゴニアの地で大和魂を思う存分発揮してきます。遠く離れた日本からではありますが、応援宜しくお願いします。



和木香織利です。出発目前となり夜も眠れないくらいワクワクしています。昨年11月にトレーニング生になり出場が決まってからというもの、イーストウインドは本当に多くの方からの応援あって活動できていると実感しています。言葉で言うのは簡単ですが、涙が出るほど感謝の気持ちで一杯です。絶対に皆様の期待に堪え、上位目指した積極的なレースが出来るよう精一杯頑張ります。一番辛いときはサポーターの皆様の応援を思い出し、力にさせて頂きます。引き続き、応援宜しくお願い致します！



## パタゴニアエクスペディションレース媒体情報

### テレビ放送

放送番組 : ワンダー×ワンダー(NHK総合)

放送予定日 : 5月21日(土) 19:30~20:43

放送番組 : ハイビジョン特集(BS-ハイビジョン)

放送予定日 : 4月末(89分)

### 新聞

新聞名 : 上毛新聞(掲載日は未定)

新聞名 : 朝日新聞(1月18日掲載)

<http://mytown.asahi.com/arcnews/gunma/TKY201101170391.html>

### 雑誌

雑誌名 : トレイルランニングマガジン・タカタツ

出版社名 : エイ出版社

発売日 : 3月22日(月)

価格 : 1,260円

雑誌名 : Tarzan

出版社名 : マガジンハウス

発売日 : 未定

価格 : 未定

# 東風吹かば・・・

田中正人が会社務めを辞めてアドベンチャーレーサーに転向して今年で16年目。今までに多くの方に出会い、そのたびにあらゆる方面で多くの事を学ばせて頂いています。ここではそんな面白い方々を竹内靖恵がご紹介していきます。



## 2011年度イーストウインドのトレーニング生 和木 香織利

イーストウインド初の女性トレーニング生になった和木香織利、通称ワッキー。バイリンガルでもある彼女は現在IT企業の人事部でOLとして働きながらトレーニングに取り組む。トレーニング生に合格するや否やパタゴニアエクスペディションレースに出場することが決まったラッキー(?)ガールでもある。

### 継続はチカラなり

竹内 「どうしてアドベンチャーレースをしようと思ったんですか？」

和木 「2008年5月に友人からARJS富士山大会への出場に誘われてアドベンチャーレースという競技を知ったんです。出場してみて『こんなに面白い大会があったなんて!』と衝撃を覚えました。人間の生命力溢れるレースだと感じました」

竹内 「それまではアウトドアスポーツはやっていなかったんですか？」

和木 「2004年くらいに身長162cmに体重70kgと太っていて、このままじゃ健康に悪いと思い、ランニングを始めました。それまではアウトドアスポーツらしい事はあまりしたことなかったですね。太った自分とおさらばするためにジム通いを初めて、2~3kmをジムでゆっくりとしたランニングを始めました。

2005年にフィリピンに1年半住んでいたんですけど、そのときアルティメットfrisビーを始めて週に2回frisビー、3回はジムに通い、そこで体がアスリートになりました」

竹内 「そこからメキメキと力をつけていったわけですね」

和木 「帰国後もジム通いを続けて、2007年に思い切って河口湖マラソン(27km)にエントリーしたのですが、それをきっかけにジムではなく、外で走り始めました。効果あってか完走をしました」

竹内 「昨年、始めて日本山岳耐久レースに出場して12時間46分で完走。しかも女子総合12位(年代別1位)になってますね」

和木 「ハセツネ初出場とはいえ、フルマラソンも、中国でも、信越五岳でペーサーもやっていたし、去年の夏は暑い中、毎日20km以上走り込みましたから。こう見えても結構慎重派で、本番前はかなり練習するタイプなんです(笑)」

### イーストウインドで人間性を磨きたい

竹内 「ではなぜイーストウインドのトレーニング生になろうと思ったのですか？」

和木 「イーストウインドの活躍と世界レベルのアドベンチャーレースについてはアドベンチャーレースと出会ったとき、情報収集するうえで知りました。1~2週間もの間、自然の中でメンバー協力し合い様々な種目をこなしゴールを目指すアドベンチャーレースでは、正に主将田中正人さんが提唱する『対自然・対人間・対自分』。自分だけでなく、他人にも厳しくなければならぬ。そしてその舞台は大自然で常に自然と向き合わなければならぬ、人間が生きていく上で必要不可欠な事柄が大いに学べるレースだと知り、ゾクゾクたんです」

(右上に続く)

和木 「里山アドベンチャー、中国レース、X-Adventureなどレベルの高いレースに挑戦していく中で、チームの準備、トレーニングのレベルも高める必要があり、深めるほど面白いし、メンバーと意見がぶつかることもありました。そのプロセスは、深ければ深いほど、自分の成長(メンタル・フィジカル両方)に繋がっていたし、メンバー同士の信頼も生まれ、チーム一丸となってレースに挑むことが出来ました。日本でのその最高峰がイーストウインドで、メンバーになればそれ相応の意欲、レベル、体力、忍耐力、献身が求められ、それ相応のチーム作りをしなければならぬし、一つの大きな目標を持って世界レベルのレースに挑戦することができると思ったんです」

### 理解を得るには熱意を伝えることが大切

竹内 「仕事とトレーニングの両立は大変ではないですか？」

和木 「正直大変です。ですが、自分が本当にやりたいと思って熱意をしっかりと伝え、努力しているところを見てもらえば応援してくれる人は沢山います。私の場合、トレーニング生に応募する前に、社長に『もし、会社と両立できるなら挑戦してみたい。無理なら会社を優先します』と相談して熱意を伝えました」

竹内 「で、社長は何と答えたのですか？」

和木 「『うちの会社の社員がそんなにスゴイことに挑戦するなんて誇りに思う』って言ってくれました。社長ももちろんですが、一緒に働く上司と同僚にも社長と話した内容を全て話して意見を求めました。皆さん、理解をしてくれました」

### 本気でやりたい気持ちが壁を越す

竹内 「最後にイーストウインドのトレーニング生になろうか迷っている人にメッセージをお願いします」

和木 「本気でやりたいと思うことなら、それを成すためならどんなに高い壁も越えられるはず。不安があるなら、まずはイーストウインドに問い合わせ相談してみてください。私もそうしてトレーニング生になることが出来ました。きっと解決策を見つめることが出来るはず」

#### 和木 香織利 (わき かおり)

1982年神奈川県生まれ。フィリピン留学時に英語を習得。2011年度チームイーストウインドのトレーニング生に応募し、合格。早々に今年2月に開催されるパタゴニア・エクスペディション・レースにチームイーストウインドとして出場する予定。

和木ブログ『Love Adventure Racing!』公開中  
<http://kaywaki.seesaa.net/>